

■ 概要:

科学技術戦略推進費による実施プロジェクト(4プロジェクト)について、科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会研究開発評価部会において、事後評価の結果を以下のとおり決定した。

■ 評価結果:

- 総合評価 S. 所期の計画を超えた取組が行われている
 A. 所期の計画と同等の取組が行われている
 B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同様又はそれ以上の取組もみられる
 C. 総じて初期の計画を下回る取組である

評価対象プログラム	評価対象プロジェクト (実施機関)	事後評価結果	
気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システムの改革プログラム	バイオマス・CO2・熱有効利用拠点の構築 (豊橋科学技術大学)	要素技術の実証、社会の関心の向上、機能的な実施体制等は評価できるが、社会システムの全体像が明確でなく、中間評価において指摘のあった事業性・採算性に関する検討が不十分であった。愛知県と当該大学との間で、共同プロジェクトの継続実施が決定しているため、今後は、CO2削減効果を明確にし、事業性・採算性を念頭に活動していくことを期待する。	B
安全・安心な社会のための犯罪・テロ対策技術等を実用化するプログラム	捜査支援スペクトルイメージング装置の開発 (早稲田大学)	計画していた装置の開発について、実用機やプロトタイプが完成しており、所期の目標を達成したと判断できる。	A
	可搬型生物剤・化学剤検知用バイオセンサの開発 (大阪大学)	計画していた装置の開発について、実証期間中にプロトタイプ機が試作され、所期の目標以上の性能を達成している。今後は協力機関の企業との継続的な連携、製品化を期待する。	A
途上国におけるイノベーションを促進する国際協力の戦略的推進	乾燥地域における灌漑再利用のための革新的下水処理技術開発の国際研究拠点形成 (東北大学)	実施期間中、現地(エジプト)政情不安の影響で一部計画変更を余儀なくされたが、実施期間終了前にも関わらず、当初の目標を概ね達成し得たことは高く評価できる。また、プロジェクトの認知度向上や連携強化につながったことや、エジプト政府の灌漑用水利用計画への適用が決まり、実証機の建設が開始されたことも、社会実装に向けた成果として高く評価できる。	S